

令和4年度 第2回 中小企業応援隊世話人会 報告

1 日 時 : 令和4年10月26日(水) 10時30分～12時

2 場 所 : 経済センター

3 出席者 : 京都商工会議所 中小企業支援部
京都府商工会連合会 経営支援課
京都府中小企業団体中央会 連携支援課
公益財団法人京都産業21 お客様相談室
京都市 産業観光局 地域企業イノベーション推進室
京都府 山城広域振興局
南丹広域振興局
中丹広域振興局
丹後広域振興局
事務局: 中小企業応援センター

4 開催目的 : R4 年度上半期事業の進捗状況の情報共有

R4 年度下半期事業に向けた事業の進め方について情報共有・意見聴取

5 議 事 : 資料に基づき事務局から金融・経営一体型支援事業を中心に説明。また、現場での支援の状況や課題について世話人等から意見をいただいた。

6 挨拶

(京都府)

- ・ 前回の世話人会(6/17)では、事業者が補助金慣れ・給付金慣れといった課題意識を共有できた。また、補助金等の情報をわかりやすく整理が必要とのご意見もいただいた。
- ・ 上半期には、9つのBSに特別経営指導員の配置が完了し、金融・経営一体型支援を本格化させた。一体型支援は、応援隊の伴走支援があつてこそ成立する事業、引き続きご協力をお願いしたい。
- ・ ゼロゼロ融資は、令和4年中に実行件数の約5割の返済が始まる見込み。資金繰りへの影響が顕在化してくる。応援隊が、そのための支援ノウハウをいかに身に着けることができるかが重要。
- ・ まずは、目前の資金繰り(短期)支援、その先に本業支援(中・長期)が見えてくる。
- ・ このことを踏まえて、第2回の世話人会を進め、意見等をいただきたい。

(京都市)

- ・ 京都府から補助金慣れの話があつたが、国においてもコロナ対策の補助金や給付金など、五月雨式の状況が続いてきた。京都市では、現在、中小企業等総合支援補助金を実施しているところ。

- ・ 応援隊が発足して約10年、金融・経営一体型支援という新たな事業もできた。
- ・ こうした中、責任者の会議(世話人会)などを通じて、現場の声を活かした政策立案を行っていききたいので、引き続きご協力いただきたい。

○ 議題

(1) 上半期の事業報告及び金融・経営一体型事業について

(事務局補足)

- ・ 特別経営指導員が事業者を訪問するにあっては、特に若手の応援隊員を中心に、同行訪問を実施し、OJTができるような機会を増やすよう要請している。

(2) 支援ニーズ研修について

(3) 中小企業応援隊事例発表会について

(4) 創業ワンストップ支援事業について

(5) その他の議題(ホームページの改修)

(事務局補足)

- ・ 中小企業応援センターホームページでは、事業者が使える補助金等をすぐわかるものを目指している。また、応援隊員の方にも使い勝手のよいものにしていきたいと考えている。

○ その他の質疑や意見など(⇒は、京都府からの発言)

(1) 6月補正事業について

- ・ 6月補正の補助金は、まだ、募集は継続するのか。
 - ・ 補助額も大きく、ステップアップ補助金から申請を切り替える事業者もいた。
- ⇒ 追加補正を検討しており、予定していた申請期間まで募集する予定。

(2) 9月補正事業について(情報提供)

(京都府)

⇒9月補正事業は、府・市協調の「伴走支援型経営改善おうえん資金」の融資実行を受けたものを対象としている。

「伴走支援型経営改善おうえん資金」は、ゼロゼロ融資の後継制度としてセーフティネット保証が主な利用条件となっていることもあり、ゼロゼロ融資を調達してもなお資金が不足する比較的、資金繰りが厳しい事業者が利用するイメージがある。

こういった事業者が、この支援金の利用をきっかけに、金融・経営一体型支援のスキームに現れてくることを期待して、制度設計をしている。

そのため、この支援金は危機感を感じている事業者が申請されることを想定。

(3) 支援機関からのその他意見

(意見等)

表面的な課題にしか気づいていない経営支援員も多い。
資金繰り支援まで、深掘りできていないのが実情ではないか。

(意見等)

中小企業診断士との連携など、多方面からアクションがあった事例は、経営課題をよく捉えた支援ができていると感じる。

応援隊員が一人で考えるには、解決できる範囲が限られているので、支援に限界がある。一つの企業を、どう支援していくのかみんなで考える文化を作ることが必要。